

慈光照護のもと 皆様におかれましては、愈々ご健勝にて法味愛楽のこととお慶び申し上げます。

私こと  
このたび 四月一日付をもちまして本願寺西山別院輪番並びに得度習礼所・教師教修所所長及び西山幼稚園園長を拝命致し、その重責を担わ



本願寺西山別院輪番  
得度習礼所・教師教修所所長  
西山幼稚園園長  
佐々木孝昭

新任のごあいさつ

本願寺西山別院報

く  
久  
お  
遠  
ん

〒615-8107  
京都市西京区川島北裏町  
29番地  
Tel: 075-392-7939  
Fax: 075-394-4416  
発行者: 佐々木孝昭

「久遠寺」に起源しその後、七百年もの昔、三代宗主覚如上人により復興され「念仏の道場」として、また現在は僧侶養成の道場として大切に護り伝えられてきました。

加えて、宗教的情操教育を目的に八十年あまりの歴史をもつ、西山幼稚園も運営してきたことであります。

当然のことではあります。当別院門信徒の皆さまとともに、お念仏のみ教えを伝えていくため、宗門にとりこの大切な道場をお預かりさせて戴くことの重大さを痛感し尽力致す

所存でありますので何卒ご協力ご賛のほどお願い申し上げます。挨拶いたします。

合掌



本願寺 西山別院 平成27年度



うらぼんえ  
盂蘭盆会のご案内

【日時】 8月13日(木)  
午前10時より11時30分頃迄

【場所】 本願寺西山別院 本堂

【法話】 輪番 佐々木孝昭

十方微塵世界の 念仏の衆生をみそなはし  
摂取してすてざれば 阿弥陀となづけたてまつる  
(親鸞聖人)

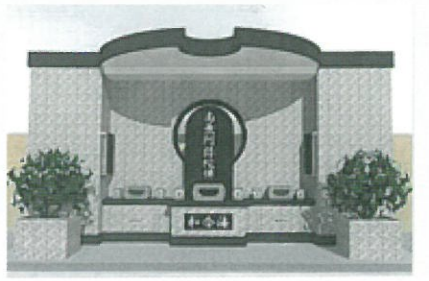
阿弥陀さまは、お念仏となってどのような罪深いものも救うと誓われました。そのことを聞きうけ、お念仏します。お浄土へ往生された故人も、そのことをもっとも願っておられるに違いないのです。

そして今度は私が子孫に何を願うか。「本当のしあわせとは、仏の願いにであう人だよ」、「お念仏を申せる人になってほしい」と願っていききたいものです。

～専徳寺 法話集 2013～より

～共同納骨墓法要のご案内～

毎月、16日午前9時より別院墓地の共同納骨墓の前でのおつとめをしています。皆さまのお参り、お待ち申し上げます。



## 西山別院仏教壮年会 第1回親睦ゴルフ大会開催

2015(平成27)年7月2日(木)、当院仏教壮年会の有志の皆さんと職員が親睦を深めるためゴルフ大会を開催しました。コースは滋賀県甲賀市の大甲賀カントリークラブの油日コースで、門信徒有志9名と佐々木輪番、職員の末政参勤、花山参勤の計12名が3組にわかれて、9時30分スタート。まずまずの天候のもと、大いにプレーを楽しみました。プレー後はゴルフ場から別院に戻り、全員で讃仏偈のお勤めをし、佐々木輪番の法話を聴聞されました。



なお、今後は広く門信徒の皆様にも参加していただけるゴルフ大会にしていきたいと考えております。次回は11月25日(水)に開催を予定しておりますので、どうぞお気軽にご参加ください。

## 第2回西京桂おんがく祭 in 西山別院

2015(平成27)年7月5日(日)に『西京桂おんがく祭～アフリカの響き』(主催：西京桂おんがく祭実行委員会)が、西山別院を会場に開催されました。当日は天候にも恵まれ、150名を超える来場者で境内は大いに賑わいました。14時から本堂をステージにプロミュージシャンの「SAFAIKO」によるアフリカ音楽の演奏が披露され、大人も子どもも大いに盛り上がりました。また、縁側では、西京区の特産品やアフリカ雑貨の出店も好評で、楽しく熱い一日でした。



## 知る

-連載-  
西山別院開基  
覚如上人  
第5回  
唯善のこと

徳治二年(一一三〇七)、病の床におられた覚恵法師が往生されました。この年、覚恵法師の異父弟で覚如さまの叔父にあたる唯善は大谷廟堂を占拠したまま、さらに抵抗を進め、事態は訴訟事件に発展していきます。しかし当時の京都において、訴訟問題は朝廷の裁決を受けることができませんでした。そのため、大谷廟堂の争いの決着は青蓮院の裁断に委ねられることになりました。そして延慶二年(一一三〇九)、青蓮院から多年にわたり大谷廟堂を官領してきた門弟たちに対し裁決文が届けられた。その裁決文には、廟堂の留守に誰を任命するかは、門弟たちの自由であるとし、選択権が全面的に門弟の手

中にあることが記されており、これは同時に唯善の敗訴をほのめかす内容でありました。この内容をすでにみこしていたためか、訴訟の最中に唯善は、廟堂から親鸞聖人のご影像やご遺骨を奪取し他所へ潜伏する挙に出ました。やがて関東方面に没落し、鎌倉常葉(現在の鎌倉市内にある常盤をさす)に小堂を建て、ご影像やご遺骨を安置したとされています。この鎌倉常葉への逃走事件に当たり、唯善はご影像やご遺骨を運び去ったばかりでなく、廟堂の建物や石堂までも破壊してしまいました。唯善が逃亡した後の大谷においては、ご影像の再造が急がれ、延慶三年(一一三二〇)に門弟の頭智らによりご影像が再興されました。その翌年には、門弟の法智により、大谷の堂舎の復旧工事がはじめられました。延慶三年(一一三二〇)、この年に

四一歳になられた覚如さまは、留守の任務に就くことを関東の門弟らから任命され、大谷に入りました。そしてこの時よりこれまでの「留守」という地位の名称を「留守職(るすしき)」に改められました。これは門弟たちに唯善と同一視されないようにする意図があったと考えられます。その留守職に就任された覚如さまの課題は、大谷御影堂を廟堂から名実ともに教団の中枢としての寺院の位置にまで高めることでありました。これまでの経過からその実現はかなり困難な道のように思われましたが、覚如さまは就任の翌年から本願寺教団のたちあげに向け、地方に散在する門徒に協力を呼びかけるため各地に赴かれました。

〈参考文献〉重松明久『覚如』吉川弘文館